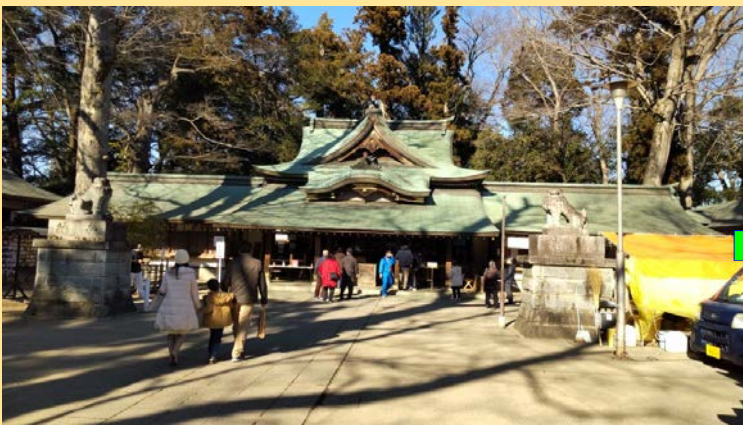


じん しゃ 神 社



この記号は、神社の参道入口などに立っている鳥居の形を記号にしました。

有名な神社は地図に名称が注記されています。



ひとことぬしじんしゃ いばらきけんじょうそうし
一言主神社（茨城県常総市）

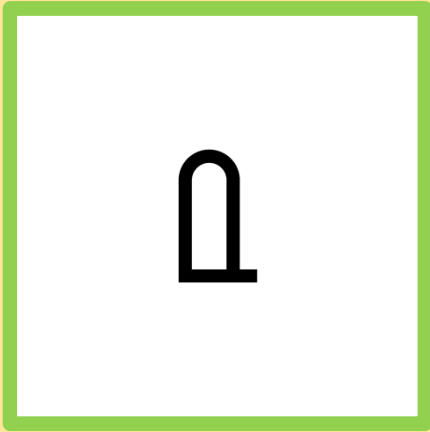


たかさ い じんしゃ いばらき けんしもつまし
高道祖神社（茨城県下妻市）



上記高道祖神社と同じ茨城県下妻市にある神社「大宝八幡宮」には、創建1300年祭を記念して建てられた本格的な相撲の土俵があり、この土俵を舞台に毎年6月中旬に高砂部屋と錦戸部屋の相撲稽古が行われ、一般の方もご覧になれるということです。

きねんひ 記念碑



きねんひ きごう りつ そう ふく
記念碑の記号は、立像を含めた
ゆうめい
有名なものをあらわします。

とく ゆうめい な まえ
特に有名なものはその名前もいっ
ひょうじ
しょに表示しています。

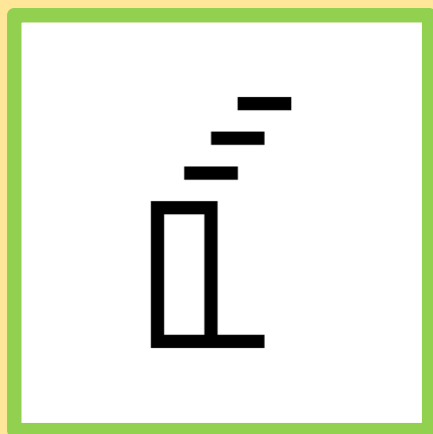
きごう いし きねんひ
この記号は、石でできた記念碑を
しょうめん み かたち かげ かたち き
正面から見た形とその陰の形を記
ごう
号にしました。

おきなわ けん へい わ き ねん こう えん おきなわ せん ひと びと し めい
沖縄県にある平和祈念公園には、沖縄戦でなくなられたすべての人々の氏名を
きざ へい わ いしじ せんぼつしゃ ちんこん えい えん へい わ いの へい わ き ねん ぞう
刻んだ「平和の礎」、戦没者の鎮魂と永遠の平和を祈る「平和祈念像」、そして
ま ぶ に おか うえ こくりつ おきなわ せんぼつ しゃぼ えん ふ けん だん たい い れい とう き こんりゅう
摩文仁の丘の上には国立沖縄戦没者墓苑や府県、団体の慰霊塔が50基建立されて
います。



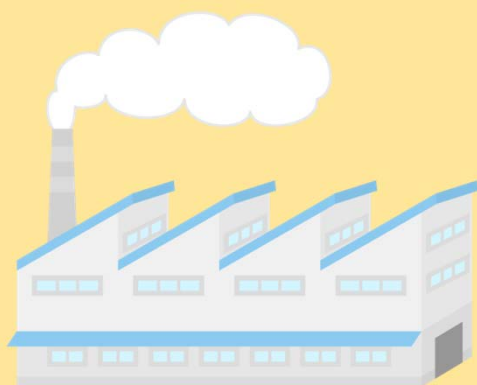
へい わ き ねん こう えん れい めい の とう
平和祈念公園の「黎明之塔」

えん とつ 煙 突



えん とつ き ごう おお
煙突の記号は、とくに大きなもの
をあらわしています。

き ごう えん とつ かげ
この記号は、煙突とその影、けむ
りを組み合わせ記号にしました。



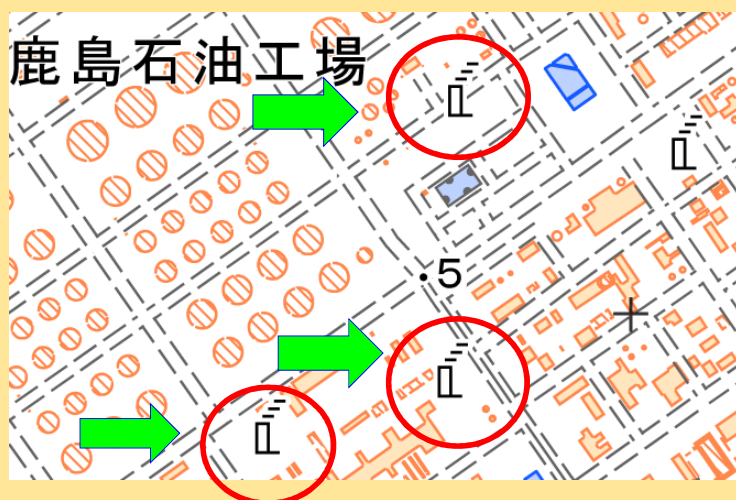
えんとつ いっわ
(煙突にまつわる逸話)

えんとつ へ や
は い わ た い つた
サンタクロースは、クリスマスに煙突から部屋に
入ってこどもたちにプレゼントを渡すという言い伝
えがありますよね。

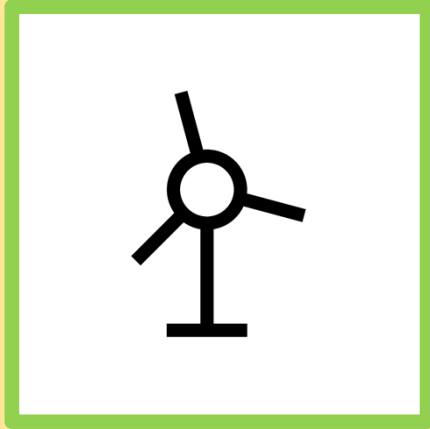
せい
これは、サンタクロースのモデルとされる聖ニコラ
ます しょうじょ いえ えんとつ きん か な い
ウスが貧しい少女の家の煙突から金貨を投げ入れた
という伝説が由来となっているそうです。



工場地帯の煙突群：茨城県神栖市
(国土地理院HPより)



ふう しゃ 風 車



ふうりよくはつでん まい ばね かぜ う
風力発電の3枚羽が風を受けて
よう す き ごう
まわっている様子を記号にした
ものです。
ぜんこく しょうがくせい ちゅうがくせい ぼ しゅう
全国の小学生・中学生から募集
したデザインをもとにつくられ
ました。



にほん ぜんこく ふうりよくはつでんどうにゆうりようせっち きすう おお と どうふ けん
日本全国の風力発電導入量（設置基数）が多い都道府県

ランキング BEST 3

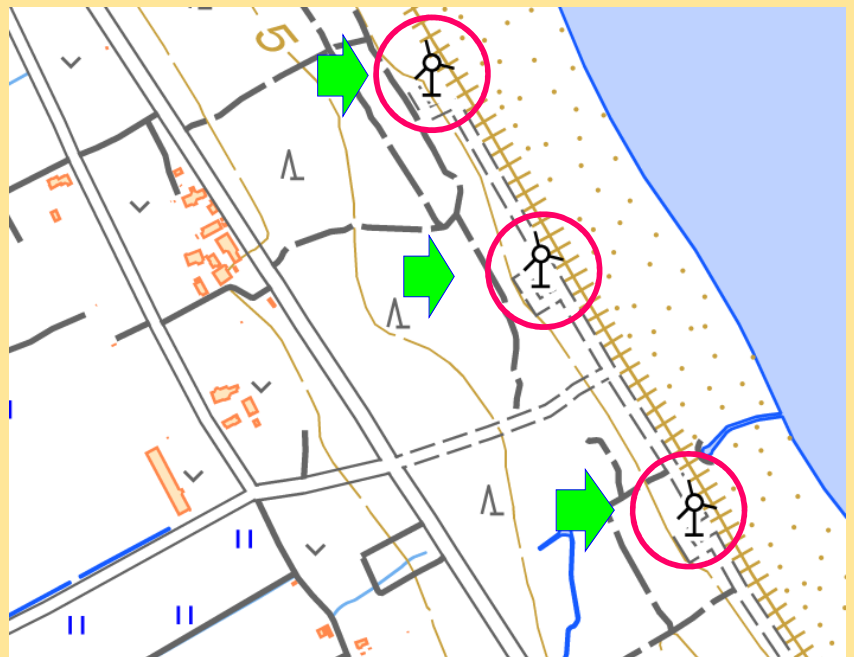
1. 北海道 304基
ほっかいどう き
2. 青森県 253基
あおもりけん き
3. 秋田県 201基
あきた けん き

ねんそうむしょう どうけい ちょうさ
(2018年総務省による統計ダッシュボード調査)



© 神栖市

ようじょうふうりよくはつでん
洋上風力発電



おん せん 温 泉



温泉の湯つぼと湯けむりが合わ
さった形になっています。

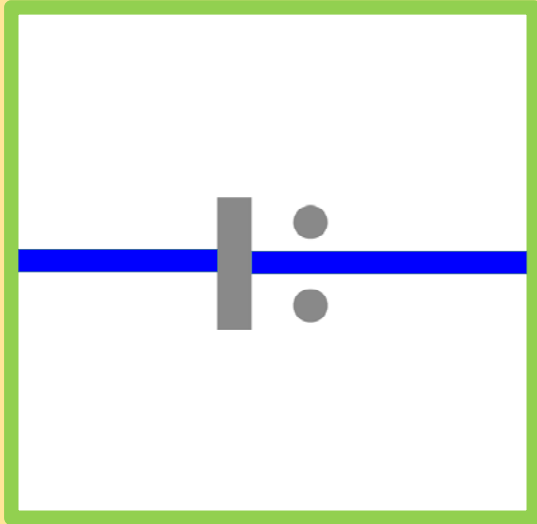


写真提供：定山溪観光協会



温泉の記号は、温泉法という法律で決められている温
泉や鉱泉をあらわします。

たきしょう 滝 (小)



滝 (小) 地図記号

滝とは、流水が急激に落下する場所を言います。普通は高さが5m以上で、いつも水が流れている有名な滝や好目標となる滝が表示されます。



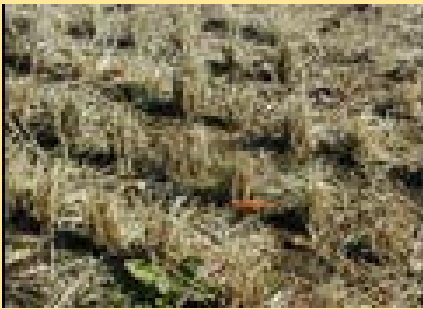
栃木県日光周辺

滝の幅が20m未満のものは滝 (小) で表示されます。ちなみに滝 (大) には袋田の滝があります。

た 田

||

こめ つく すいでん あらわ
米を作っている水田などを表してい
て、稲が刈り終わったときの状態を
き ごう じょうたい
記号にしています。



刈り終わった田



はすばたけ（土浦市）



田（つくば市）



はすばたけ つく おな
蓮畑やワサビなども田んぼで作っているので、同じ記号
つか とち はたけ き せつ か
を使っています。同じ土地で水田と畑を季節ごとに変え
ば しょ ち す き ごう
る場所であっても田の地図記号で表しています。

はたけ 畑



種^{たね}を植^うえてから初^{はじ}めて顔^{かお}を出^だす双^{ふた}葉^ば
をあらわ^{はつ}しています。発^{はつ}芽^がした双^{ふた}葉^ば
の見た^み目の通^めりに「V^{どお}の字^{ふい}」で表^じ現^{ひょうげん}さ
れている地^ち図^ず記^き号^{ごう}にしています。



双葉



しば畑（つくば市）



野菜^{やさい}などの農^{のう}作^{さく}物^{ぶつ}を作^{つく}っている畑^{はたけ}の場^ば所^{しょ}には、この記
号^{むぎ}が^{りくとう}か^{しば}か^{ぼくそう}かれてい^{あつか}ます。麦^{あつか}や陸^{りく}稻^{とう}、芝^{しば}、牧^{ぼく}草^{そう}、パイナッ
プル^{あつか}など^{あつか}を扱^{あつか}っている場^{あつか}所^{あつか}にも使^{あつか}わ^{あつか}れてい^{あつか}ます。

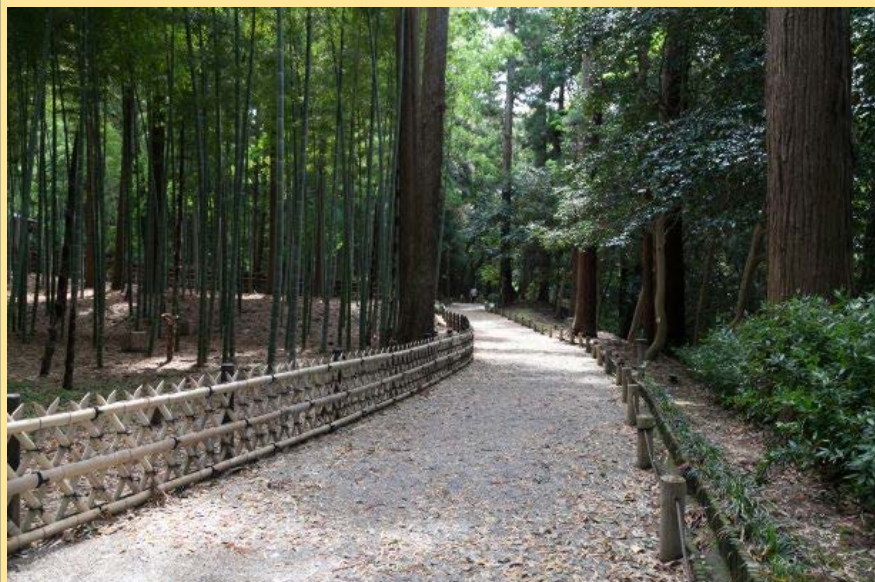
ちく りん 竹 林



ちくりん きごう たけ
竹林の記号は、竹がすきまなく
は
生えているところをあらわしま
す。



たけ ようす
竹の生えている様子と
かげ きごう
影を記号にしました。



しゃしん かいらくえん もうそうちくりん
写真は偕楽園の孟宗竹林です。

ゆみ ざいりょう よ とくがわりあき
弓の材料にも良いとされ、徳川齊昭が

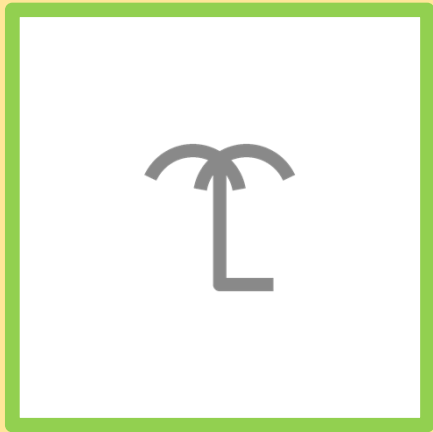
きょうとおとこやま いしよく
京都男山の竹を移植したものです。

しゅってん いばらきけん
(出展：茨城県ホームページ)

<https://www.pref.ibaraki.jp/doboku/kogai/kikaku/kairakuen.html>

いばらきけん みとし
竹林：茨城県水戸市

かじゅりん ヤシ科樹林



ヤシ科植物（フェニックス、
シュロ、ナツメヤシなど）、
大型のシダ植物（ヘゴなど）、
大型の熱帯植物（タコノキ、
ガジュマルなど）がはえて
密生しているところをあらわ
します。

ヤシ科樹林は、ヤシの木
を横から見たときの形を
記号にしました。



「名も知らぬ 遠き島より 流れよる 椰子の実ひとつ」
誰もが口ずさんだことのある、島崎藤村氏作詞による国民
歌謡「椰子の実」。誕生を物語る記念碑が日出園地にある。

椰子の実記念碑・歌碑（愛知県田原市日出町）

地図記号の移り変わり

様々な地図がありますが、それぞれの地図の種類や縮尺ごとに図式が決められています。

また、地図記号は最初に明治時代に定められましたが、その後も作成時期ごとに定められたた図式によって変化してきました。

図式とは、地図に表示する記号や文字など、すべての事項を定めた規程をいいます。

現在の地図記号も縮尺ごとに異なりますが、紙地図とデジタル地図でも異なる場合もあります。

地図記号はその時代に求められた表現がされています。戦前は軍事用に作られていたこともあり、作戦や部隊への指示に必要な情報が記号で表していました。橋は戦車など重量のある車両が通れるコンクリート製の橋や木製の橋が区別できるように記号が定められていました。

地図記号は時代の変化とともに見直しが行われ、少しずつ形を変えてきました。時代によって新しく地図記号を追加したり、不要になった地図記号は削除されたりします。また、記号の形は変わらなくても、呼び方が変わっているものも多くあります。時代とともに変化する地図記号の様子を見てみましょう。

年代 名称	明	治	大 正	昭 和	平 成
水準点	16年 木345,2 → 18年 □345,20 → 24年 □345,27		→	35年 □87.05 一等 □34.2 二等 → 40年 □34.2	25年～現在 □34.2
郵便局	16年 → → 24年 ✉ → 42年 ≡		→	17年 ⊕ →	14年 ⊕ ⊕
学 校	18年 → 24年 文		→		文
病 院	18年 → 24年 → 28年 → 42年 →		→	30年 →	→
高 塔	16年 → 18年 → 24年 → 42年 →		→	35年 → →	→
煙 突	18年 → 24年 → 28年 → 42年 → 6年 →		→	35年 →	→
灯 台	16年 → 18年 → 42年 →		→	30年 → 40年 →	→
田	16年 田 水田 → 18年 陸田 水田 深田 → 24年 田 沼田 →		6年 乾田 水田 沼田 →	40年 田 →	田
畑	無記号		→	40年 →	→
竹 林	16年 → 18年 → 24年 → 42年 →		→	35年 → 40年 →	→
温 泉	18年 → 24年 → 28年 → 42年 →		→	17年 山 (温泉) 山 (冷泉) → 30年 → 40年 →	14年 →
噴火口 噴気口	18年 → 24年 → 28年 → 33年 → 42年 →		→	17年 → 35年 → 40年 →	→

地図の描き方(図式)は、明治の始めから何度も変わりました。
下の表は、1/2万、1/2.5万地形図の主な記号の移り変わりです。

地図記号の移り変わり

二万分一迅速測図原図図式【明治13年（1880）～明治19年（1886）】

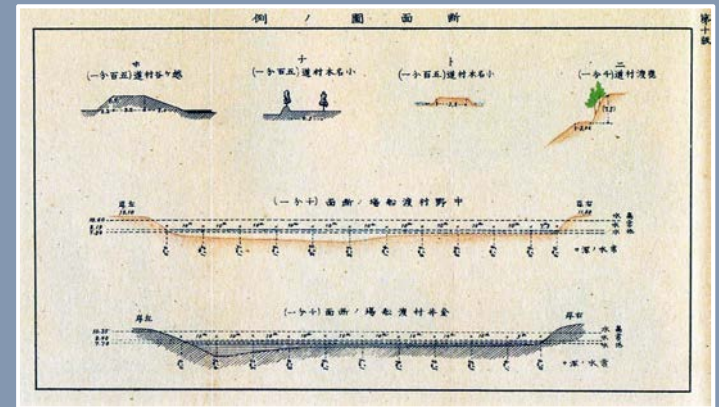
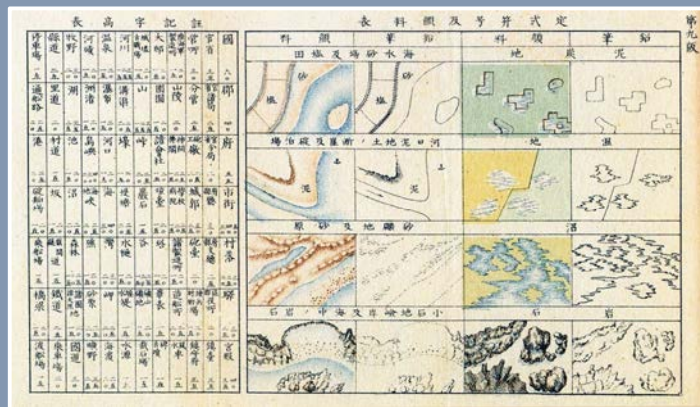
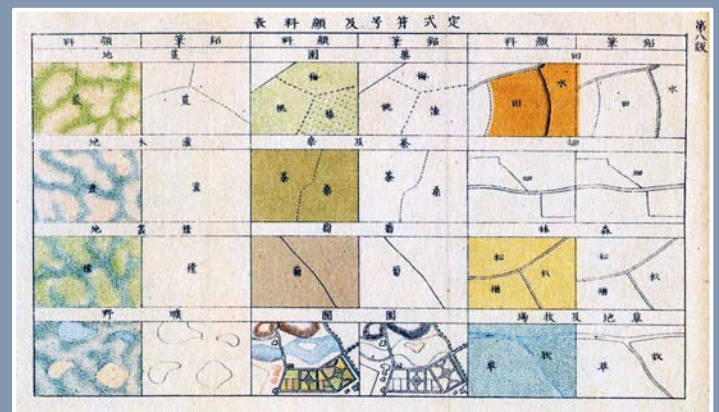
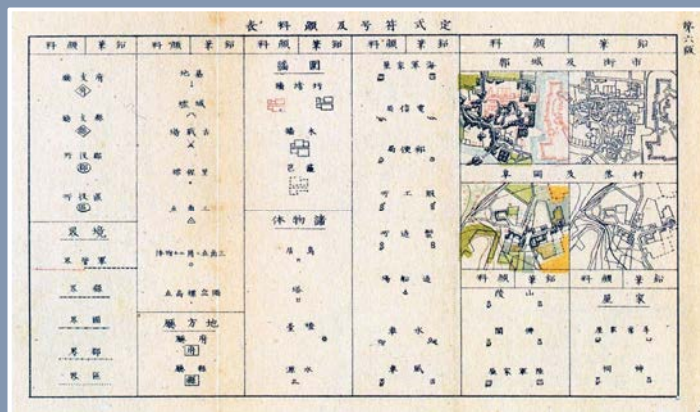
この「二万分一迅速測図原図」に用いられた地図記号が、我が国最初の洋式図式です

迅速測図原図の図式はのちに「明治13年式図式」と呼ばれていますが、当時は「図式」という用語ではなく、地形図測量の作業規程であった「測量軌典(明治14年陸軍文庫刊行)」および付図の「定式符号及顔料表(定式色号表)」に定められていました。

「測量軌典」の「緒言」に「…測繪の法式に至ては仏国砲工学校の教科に準拠す…(原文は旧漢字ナ使い)」とあり、この「図式」は「フランス式」や「渲彩式」とも呼ばれています。この「図式」の記号の数は全部で約95種からなり、各記号は所定の色と3段階に区分された太さの線によって表現されています。

道路は国道、県道、里道、村道、小径に区分し黒色で表現、家屋は木造は黒、塙工家屋(レンガや石製の家屋)は紅色で表現されています。植生記号はなく、田は黄色、桑畑は黒茶色、茶畑は茶色、森林は緑色などに彩色、樹種などを文字で補足しています。水部は藍色で着色、地形については5m間隔の褐色等高線で描かれています。

また、図郭外側に風景のスケッチや河川の横断面図が描かれているものもあります。



2万5千分1地形図で 使われなくなった主な地図記号



ぎん こう
銀 行

しょう わ ねん ず しき
昭和30年図式でなくなった

ゆ らい え ど じ だ い り ょ う が え し ょ う つ か
由来：江戸時代の両替商が使っていた分銅の形を記号化



こ せん じ ょ う
古戦場

しょう わ ねん ず しき
昭和35年図式でなくなった

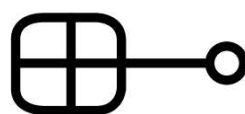
ゆ らい こう さ に ほ ん と う か た ち
由来：交差させた日本刀の形を記号化



と どう ふ けん ち ょ う
都道府県庁

しょう わ ねん ず しき
昭和40年図式でなくなった

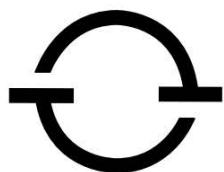
まん ぶん ち せい ず
※20万分1地勢図などでは
いまでも使われている



ぼく じ ょ う
牧 場

しょう わ ねん ず しき
昭和40年図式でなくなった

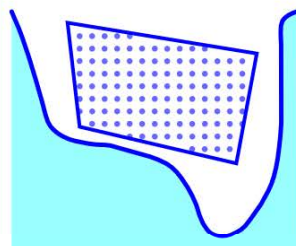
ゆ らい た づ な つ う ま
由来：くつわ（手綱を付けるための馬
の口にかませる金具）の形を記号化



でん ぽ う でん わ き ょ く
電報・電話局

しょう わ ねん ず しき
昭和61年図式でなくなった

ゆ らい え め て い て い ぜん し ん に つ ぽ ん で ん し ん で ん わ こう し ゃ
由来：NTTの前身の日本電信電話公社
のマーク（レシーバー）の形を記号化

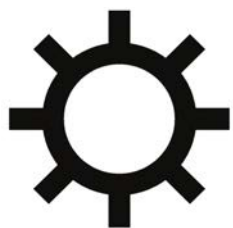


えん でん
塩 田

しょう わ ねん ず しき
昭和61年図式でなくなった

2万5千分1地形図で

使われなくなった主な地図記号 2



こう じょう
工 場

へい せい ねん ず しき
平成25年図式でなくなった

ゆらい き かい はぐるま き ごう か
由来：機械の歯車を記号化



さい せき ち
採石地

へい せい ねん ず しき
平成25年図式でなくなった

ゆらい いし き ば けい かん
由来：石切り場の景観とがけ
(土)の組み合わせを記号化



き しょう だい
気象台

へい せい ねん ず しき
平成25年図式でなくなった

ゆらい き しょう かん そく つか ふう そく けい
由来：気象観測に使う風速計を
記号化



しん りん かん り しょ
森林管理署

へい せい ねん ず しき
平成25年図式でなくなった

ゆらい き も じ き ごう か
由来：「木」の文字を記号化



くわ ばたけ
桑 畑

へい せい ねん ず しき
平成25年図式でなくなった

ゆらい くわ き かたち き ごう か
由来：桑の木の形を記号化



た
その他の
樹木畑

へい せい ねん ず しき
平成25年図式でなくなった

ゆらい じゅ もく ばたけ う え み
由来：樹木畑を上から見たとき
の形を記号化